

研究課題：低年齢のステロイド依存性ネフローゼ症候群に対する高用量ミゾリビン療法の有効性の予測因子と長期予後の検討

1. 研究の目的

低年齢のステロイド依存性ネフローゼ症候群に対する高用量ミゾリビン療法の有効性の予測因子と長期予後について検討します。

2. 研究の方法

2006年1月1日から2017年12月31日までにネフローゼ症候群と診断され、その後、高用量MZR療法を導入した患者様が対象になります。その中で、2年以上観察(中央値7.5年)しえた低年齢(10歳以下)のSDNS25例(男児16例)を後方視的に検討しました。MZRは内服2時間後の血中濃度(C2)3 μ /ml以上、10~15 mg/kg/day(最大300 mg)で投与した。プレドニゾロン(PSL)は漸減中止し、1年以上無再発であればMZRも漸減中止という治療方針です。

3. 研究対象期間

2006年1月~2019年12月です。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録のみです。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

本研究の内容に関しては後に学会または誌上で発表し、公表します。

6. 研究組織

埼玉県立小児医療センター 腎臓科 科長兼副部長 藤永 周一郎

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2020年5月31日まで下記の連絡先へお申出ください。

い。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）